卒業論文

祇園祭のゴミ問題　～祭りから日常生活へ～

京都経済短期大学　経営情報学科

今瀬政司ゼミナール

2 回生　林　明澄

卒業論文

祇園祭のゴミ問題～祭りから日常生活へ～

京都経済短期大学　経営情報学科
今瀬政司ゼミナール
2 回生　林　明澄

目次

Ⅰ　はじめに・・1
Ⅰ-1　調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　調査結果 1・・1
Ⅱ-1　祇園祭とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ-2　祇園祭の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ-3　京都市民から見た祇園祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅱ-4　祇園祭の近隣住民が抱える問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　調査結果 2・・2
Ⅲ-1　祇園祭ごみゼロ大作戦の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ-1-（1）　参加する上でのスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ-1-（2）　準備物・費用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Ⅲ-2　祇園祭ごみゼロ大作戦の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Ⅲ-2-（1）祇園祭のゴミの量の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Ⅲ-2-（2）　ゴミ分別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Ⅲ-2-（3）　祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Ⅲ-3　祇園祭に来客目線で参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅳ　ゴミを減らすには？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅳ-1　祇園祭の来客のマナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅳ-2　ゴミを減らすための独自の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅳ-2-（1）　リユース食器とは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅳ-2-（2）　リユース食器が広まれば・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
Ⅳ-2-（3）　リユース食器が捨てられないために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
Ⅳ-2-（4）　今後のリユース食器について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
Ⅳ-2-（4）－　①　リユース食器の有料化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅳ-3　私有地店舗の協力呼びかけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅳ-3-（1）　近辺の飲食店・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅳ-3-（1）　コンビニエンスストアからのゴミ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅴ　脱・使い捨て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅴ-1　レジ袋・・・7
Ⅴ-2　ストロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
Ⅴ-3　割り箸・・8
Ⅴ-4　ペットボトル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
Ⅴ-4-（1）　マイボトルのメリット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
Ⅴ-4-（2）　マイボトルのデメリット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

Ⅵ　祭りから日常へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Ⅵ-1　祇園祭ごみゼロ大作戦の努力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Ⅵ-2　リユースをすることが日常へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Ⅵ-2-（1）　日常にしようとしても・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Ⅵ-2-（2）　類似の問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Ⅶ　おわりに・・10
Ⅶ-1　祇園祭のために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Ⅶ-2　これからの日常生活において・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Ⅶ-3　これからの京都のために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Ⅶ-4　わたしたちにできること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

協力者・協力団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
参考文献・・11

Ⅰ　はじめに

筆者が本稿で取り上げるテーマは、京都の祇園祭を主体としたゴミ問題である。ゴミを減らすための取り組みをしている団体やそれに協力する人々はどのような取り組みをしているのか。ゴミを減らす取り組みにもっと積極的に参加しなくてはならない企業や団体、個人とはどういったものなのか、これからの祇園祭や京都のためにできることはないか考えた。また、祇園祭などのイベントごとがある時だけゴミを減らすように努めるのではなく、祭りで得た知識やノウハウを日常に浸透できるように、祭りに参加した人の意識を変化させるためにはどうしていけばいいのかも論じた。そして本稿を読んだ人のゴミに対する意思が少しでも変化する手助けをできたらいいと筆者は考えている。

Ⅰ-1　調査方法

まずは祇園祭について詳しく知ることからはじめた。主にインターネットのウェブサイトで祇園祭の歴史や詳細について調べた。祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティアスタッフとして参加した。
祇園祭ごみゼロ大作戦の理事長太田航平氏にインタビューを行い、ゴミに対する意思や課題を知る。こうしたことを踏まえた上で筆者自身が感じたことも本稿で述べた。

Ⅱ　調査結果 1

Ⅱ-1　祇園祭とは

祇園祭は京都市で毎年 7 月 1 日から 1 ヶ月にわたり行われる伝統的な祭りで、日本の三代祭りの一つでもある。中でも、7 月中旬に行われる宵々山と宵山は屋台(露店)などが出店されるため、多くの人で賑わいを見せる。2018 年は 7 月 15 日、7 月 16 日の二日間で行われ、多くの人が京都の祇園祭に訪れた。

Ⅱ-2　祇園祭の歴史

祇園祭の始まりは869年。当初は疫病(えきびょう)が大流行した時に、御霊(ごりょう)がお怒りになっていると市民が考え、疫病退散のために「祇園御霊会(ごりょうえ)」という行事をしたのがのちに祇園祭へと変わったものである。970 年を境に、祇園御霊会は当初は疫病が流行った時にだけ行われていたのだが、毎年行われる行事へと変化した。次第に市民が積極的に参加するようになり、相撲や歌舞伎などの舞台行事が行われ、祭りとしての色彩が強くなった。こうして祭りへと変化したかたちが現在の祇園祭である。毎年多くの人で賑わいを見せ、まともに歩けなくなるほどの人だかりを見せている。宵山(よいやま)と山鉾巡行(やまぼこじゅんこう)の日には特に多くの人が訪れ、前祭(さきまつり)では屋台も多く出店され、歩行者天国になった道路では多くの人でまともに歩けない状況となる。(歩行者天国・・・普段は車両道路の場所が、交通規制され、歩行者専用道路になっている道)

Ⅱ-3　京都市民からみた祇園祭

筆者は以前に何度か祇園祭に訪れたことがあるが、ずらりと並ぶ屋台が非常に印象的である。夏祭りという雰囲気が楽しめ、浴衣で訪れる人も多くいる。屋台を楽しむのが目的で訪れる若者も比較的多いと見られる。また、日本の三大祭りと言われるような規模の大きな祭りであり、京都府内から訪れる人にとどまらず、他の地方（他府県・海外）からの来客も多い祭りだと言える（2017 年の来場者数・・・約 88．7 万人)。一方、このように多くの人が訪れる祇園祭では、ゴミが多いというイメージや汚いというイメージを持っている人も多くいる。筆者自身が訪れた時も、屋台の並びが途切れるとポイ捨てされているゴミや残飯の多くを目にしたことがある。綺麗な京都の街並みとは裏腹に、祭り後の道路は綺麗とは言い難い状況へと変化している。

Ⅱ-4　祇園祭の近隣住民の問題

そうした散乱ゴミを処理しているのは、何一つとゴミを出していない近隣住民である。近隣住民は、祇園祭が終わる夜中から朝方にかけて清掃活動を行っている。近隣住民からすれば、多くの人が祇園祭を楽しんでいってくれるのは非常に嬉しいことだが、ゴミの処理については毎年悩まされていると見られる。そういったゴミをなくすために活動している団体もある。その団体は一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦という団体である。筆者はこの団体のボランティア活動に参加し、理事長太田航平氏にインタビューに応じていただいた。

Ⅲ　調査結果 2

Ⅲ-1　祇園祭ごみゼロ大作戦の概要

祇園祭ごみゼロ大作戦の概要は下記の通りだ。

「祇園祭ごみゼロ大作戦」
日時：7 月 15 日（日）宵々山 12：00〜24：00
　　7 月 16 日（月祝）宵山 12：00〜24：00
場所：河原町祇園祭会場
ボランティア人数：のべ 2000 人（今後減らしていく予定）
実施内容：1．祇園祭のリユース食器オペレーションの実施
　　2．祇園祭飲食出店者へのリユース食器貸し出し（無料）
　　3．資源の分別活動（プラスチックや生ゴミ、リユース食器の分別）
　　4．分散ゴミの清掃活動（拾い歩き）
主催：一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦

Ⅲ-1-（1）　参加する上でのスケジュール

筆者が本稿を執筆するにあたってのスケジュールは下記の通りだ。

2018 年
5 月 16 日：祇園祭ごみゼロ大作戦ボランティアスタッフへの申し込み
5 月 21 日：祇園まつりについて下調べ開始
6 月 20 日：ボランティアスタッフ説明会
6 月 26 日：一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦の理事長太田氏に個別インタビューに応じていただいた
7 月 15 日：14：00〜18：00 祇園祭ごみゼロ大作戦にボランティアスタッフとして参加
7 月 16 日：友人と祇園祭に参加し、来客目線で祇園祭を見る。
夏休み期間：ゴミを減らすための取り組みについて調べる。
10 月 25 日：一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦理事長太田氏に二度目のインタビューに応じていただいた。
筆者が 2018 年の祇園祭ごみゼロ大作戦について携わったのはこれだけのスケジュールではあるが、上記に書いたこと以外でも、多くの人が携わり、準備をされている。　筆者は二日間の活動スケジュールの中で、7 月 15 日の 14：00〜18：00 の間、資源の分別活動、分散ゴミの清掃活動を行なった。

Ⅲ-1-（2）　準備物・費用

祇園祭ごみゼロ大作戦のスタッフガイドに記載されていた持ち物である。スタッフガイドの持ち物一覧に従い、筆者も準備をした。
・交通費＝ボランティアスタッフ説明会への往復交通費：1000 円弱
・当日の現地までの往復交通費：500 円程度
・動きやすい服装・着替え（長ズボンが望ましい）
・汚れてもいい靴（動きやすい靴）
・帽子
・タオル（二枚ほど）
・ゴム手袋
・熱中症予防のドリンクなど：500 円程度
・虫除けスプレー：500 円程度
・雨具（突然の雨に備えて）
・制汗剤（シーブリーズなど）
・腕時計
・保険証のコピー
・ショルダーバック（両手が使えるバック）：3000 円
・屋台で使うお金：1000 円程度
合計：7000〜8000 円以内
ショルダーバッグについては近くに荷物置きがあり、購入する必要がなかった。
2018 年は両日とも気温が 38 度を上回る炎天下だったため、熱中症予防のドリンクを予想以上に購入した。

Ⅲ-2　祇園祭ごみゼロ大作戦での結果

Ⅲ-2-（1）　祇園祭のゴミの量の変化

一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦の 2018 年活動報告書から読み取った分析結果によると、2018 年の祇園祭前祭の期間に訪れた人の数は例年よりも 10 万人ほど減少し、41 万 8 千人が祇園祭に訪れた。来場者減少の要因は予想以上の炎天下のためだと考えられる。また、来場者減少に伴いゴミの量も大きく減少した。一人当たりのゴミの量が 2017 年と比べ 13 グラム、一人当たりの燃やすゴゴミの量も 2017 年と比べ 16 グラムほど減少していることがわかる。

Ⅲ-2-（2）　ゴミ分別

ゴミは、ペットボトル・かん・燃えるゴミ・残飯・ビン・串、割り箸をそれぞれ分別して回収した。串・割り箸を回収したのは 2018 年からの新しい取り組みである。分別して回収した箸・串を、森の力京都株式会社に協力いただき、木製ペレットを作る際に必要なサーマルサイクルの材料として利用し、リサイクルを行なった。ゴミの中でもペットボトルはグラムとしては重くないものの、体積としては大きくなるため、回収してトラックで運ぶのが非常に困難である。

Ⅲ-2-（3）　祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティア

祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティアに参加されている人に、どのような経緯でこの活動に参加しようと思ったのかをインタビューした。卒業論文の執筆のために参加された人もいれば、京都の街並みを綺麗にしたくて今年から参加された人、もう 3 年目や 4 年目という人もいた。ずっとごみゼロ大作戦に参加されている人は、祇園祭のゴミをなくしたいという思いが強い。一年目とゴミの量を比較し、毎年減少していくことを実感することが楽しいそうだ。そして、最終的にはボランティアが拾い歩きをしなくても道端には全くゴミがない状態にしたいとおっしゃっていた。卒業論文の執筆のために参加された人も、毎年ボランティアに参加されている人々の熱い思いに感動し真剣に活動に取り組み、有意義な時間になったとおっしゃった。

Ⅲ-3　祇園祭に来客目線で参加

祇園祭ごみゼロ大作戦にボランティアとして活動後、祇園祭に来客として参加した。人の数が多く歩きにくい道が続き、食べ終えた後のゴミが非常に邪魔に感じた。だが、ゴミ回収のボランティアの呼びかけが大きく、少し歩けばエコステーション（ゴミ回収場所）があるだろうと思うと、とてもポイ捨てをしようという気にはならなかった。それでもいくつかの散乱ゴミを目にした時は残念な気持ちになった。また、来客目線となるとポスターがあまり目に映ってこなかったので、そこの点も改善されるとより良くなるのではないかと思った。

Ⅳ　ゴミを減らすには？

Ⅳ-1　祇園祭の来客のマナー

祇園祭の来客者のゴミの取り扱いに対する変化について一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦の理事長太田氏に伺った。活動が始まってから次第にゴミを分別するのが当たり前になってきている。活動がはじまった当初よりも、ボランティアの呼びかけが強まり、多くの来客者がしっかりエコステーションにゴミを出すことにより、無意識的にゴミを道端に捨てない状況が作られているようだ。ゴミ箱の数を 140 個から 50 個に減らしたのだが、よくわかる位置に設置することによりゴミ箱の数を減らしても散乱ゴミは減少している。以前は祇園祭の会場全体がゴミ箱のような状態であったが、今では改善されている。

祇園祭には 3～4 パーセントの外国人来客がいるのだが、外国人来客に向けた「祇園祭はこのように楽しみます。」といった作法やマナーを伝えるパンフレットやポスターを作成している。そうすることで、日本ではこのようにゴミを回収しているのだと外国人に知ってもらい、ゴミをしっかり分別してもらうよう促している。そうすることで、ゴミに対するマナーやモラルは目に見えて良くなっている。

Ⅳ-2　ゴミを減らすための独自の取り組み

このような状況の中でゴミを減す、あるいはゼロにするにはどのように声かけや工夫や活動すればいいのか。また、祇園祭りに訪れる来客はどのような心構えで訪れたらよいのか。屋台を出店する人々が何か工夫をすることはできないのか。これからも京都が世界中から愛される美しい場所であるために自分たちにできることがないのかを調べた。

筆者が参加するボランティア活動の主催している一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦では今までにはなかった新しい取り組みをしている。今までは、道路などに捨てられたゴミを拾う活動をしている団体が多かったが、ずっとゴミを拾っているだけではゴミがなくなることはない。そう思い、この団体はゴミをそもそも出さないようにする活動を始めた。ゴミになるものがなければゴミを捨てることもなくなり、資源の無駄遣いにもならない。ゴミを拾い続けることがいいわけではなく、ひろわなくていい活動に変えていこうというところに視点を置いたのだ。そこで、ひろわなくていい活動にするために、「リユース食器」というものを取り入れた。

Ⅳ-2-（1）　リユース食器とは？

リユース食器とは、京都では NPO 法人地域環境デザイン研究所 ecotone などが最初に作成したものである。祭りやイベントなどで屋台がでるときに、使い捨てのものではなく何度も使える容器を利用し、ゴミを減らすために開発された。形は弁当箱のようなものや、コップ型のものがある。サイズ展開も弁当箱型の角皿は M サイズと S サイズ、コップ型のカップも大カップと小カップがある。原価は一個 100 円ほどなのだが、露店には無料で配布している。だが、現時点では数に限りがあるため、屋台で利用していて数が足りなくなった場合に追加の配布ができない。そのため、必ず利用くれる露店にしか配布をしていない。2018 年のリユース食器導入量は 176．200（個・枚）、導入店舗数は露店、私有地店舗をあわせ 172 店舗であった。リユース食器を作成した団体の思いは、多くの人が訪れる祭りやイベントでリ

ユース食器を拡散し、私生活からゴミを減らす意識を少しでも多くの人に持ってもらいたいとおもい、露店の人にリユース食器を取り入れるのに協力してもらい、この取り組みを行って来た。そのため、リユース食器は無料で露店に提供しているそうだ。

Ⅳ-2-(2)　リユース食器が広まれば

近頃では、使っては捨てるものが増えている。例えばペットボトルのジュースを購入し、飲み終わればペットボトルを捨てることやカップ麺やコンビニ弁当を購入して食べ終われば容器を捨てることがと当たり前となっている。このようなサイクルは本来なら出さなくてよかったゴミを出していることになる。例えば家から水筒を持っていったのであれば、ペットボトルを購入する回数が減るであろう。また、家から持ってきた弁当箱を使ってご飯を食べたなら、弁当箱を洗えば再度使用可能なためゴミが出ないであろう。このことから分かるように、何度も使えるものを使う習慣が薄れていっているのではないだろうか。リユース食器が祭りで多く利用され、多くの人がリユース食器の存在を知り、リユースすることへの意識が強まれば、これからはマイボトルや弁当箱の使用率が増加するのではないか。

Ⅳ-2-(3) リユース食器が捨てられないために

これまでにリユース食器が捨てられたり、自宅に持ち帰ってしまったりするという事例があり、それを解決するために対策を練っている。一つ目はポスターを作り、多くの人の目に映るようにすること。二つ目は返却を求めるシールをリユース食器一つ一つに貼ったりすること。三つ目は付近の飲食店に一軒ずつ訪問し、リユース食器を利用してもらえないかを伺うという活動を始めた。これらの活動は、リユース食器の破損・紛失率が減少するとともにリユース食器の知名度も上昇するので、もっと拡大できればよい。また、知名度が上昇するとともにリユース食器を利用し、リユースすることが世の中の常識という風に次第になっていけばよりよいだろう。

Ⅳ-2-(4) 今後のリユース食器について

リユース食器は現在、日本の三大祭り（祇園祭、天神祭、神田祭）のうち祇園祭、天神祭りの二つの祭りで使用している。今後、神田祭や 2020 年の東京オリンピックでもリユース食器を採用していくか現在話し合いを行っているそうだ。オリンピックで使用し、もっと知名度をあげることができれば好都合である。また、日本以外の各国ではゴミに対する意識がもっと強い国がある。例えば紙、ダンボール紙のリサイクル率が一位の国はアイルランドで、78 パーセントのリサイクル率を誇っている。また一般廃棄物のリサイクル率のランキングの 1 位は韓国で、日本は 23 位であった。日本のリサイクル率は高いとは言い難いのだ。日本のリサイクル意識が低いと他の国に感じ取られないためにも、リユース食器の導入は必要となってくるのではないだろうか。

Ⅳ-2-(4)－ ①　リユース食器の有料化

現在はまだリユース食器の導入については、無料で提供をしている状況である。今後有料にしても露天商の人や私有地で祇園祭のときのみ屋台を出店している店舗の人が使ってくださるよう変化し、その

お金でリユース食器の数を増やし、もっと多くの店舗で利用できるようにしていければ素晴らしいのではないか。

Ⅳ-3　私有地店舗の協力の呼びかけ

祇園祭で出るゴミの 4 割は露店から出るゴミで残りの 6 割は私有地で営業しているコンビニエンスストアや飲食店などから出るゴミである。だが、私有地で営業している店舗は店で売れたもののゴミ処理に協力しないのだ。私有地のお店は売ったものは売りっぱなしで、そのあとの処理などについてはほったらかしということだ。その問題を私有地の店は理解し、ごみゼロ大作戦などのボランティアがいなくとも私有地の店の協力をどのように促すかが今後の改善点である。2018 年からは私有地で販売しているコンビニなどの店舗にリユース食器の導入を呼びかけ、30 店舗もの私有地店舗がリユース食器を導入した。

祇園祭にははっきりとした主催者がいない。そのため、ゴミの処理費用や警備費用について大きな問題となっている。今後、費用の協力などがなくなると祇園祭を開催できないという事態も起こりかねない。毎年儲かっている私有地店舗の人たちの協力が必要不可欠となってくるのではないだろうか。

Ⅳ-3-（1）　コンビニエンスストアからのゴミ

私有地店舗の中でもコンビニエンスストアからでるゴミは使い捨てのものが多い。筆者が祇園祭ごみゼロ大作戦に参加し、散乱ゴミを拾い歩きしていた時もスーパーのレジ袋、割り箸、ホットドッグや焼き鳥の串が数多く落ちていた。筆者が拾い歩きをしたエリアがたまたま多かったわけではなく、祇園祭全体を見て多く落ちていた。それらの使い捨てされるゴミを減らすための活動はどのようになされているのか。コンビニエンスストアで弁当を買ったとしても自宅から箸を持参して、割り箸を断るということをみんなが自然にできるようになれば資源の無駄遣いは少しでも減少するだろう。以下の文で使い捨てをしないための提案をいくつかしようと思う。

Ⅴ　脱・使い捨て

Ⅴ-1　レジ袋

私たちが買い物した後にもらえるレジ袋は、家から袋やエコバックを持参すれば買い物をした後に毎回もらう必要がなく捨てる必要もないのだ。最近はスーパーマーケットなどではレジ袋を有料化しているところが増えてきている。だが、コンビニエンスストアではレジ袋の有料化はされていない。これからはスーパーマーケットのみにとどまらず、コンビニエンスストアや小売店などでもマイバックを推奨し、レジ袋が全くなくてもみんなが買い物をできるようにしていかなくてはならないのではないだろうか。初期段階としては、普段からコンビニエンスストアのゴミ袋を有料化とは言わずに、祭りの時やイベントの時だけでもゴミが多く出そうな時に有料化することからはじめ、徐々に私生活に浸透していけばいいのではないか。

V-2　ストロー

ストローは、あってもなくてもいいものといっても過言ではないのではないだろうか。ストローがなくても飲み物は飲める。どうしてもストローを利用したい人は、使い捨てストローを利用するのではなく、洗って何度も使える再利用可能なストローも販売しているのでそちらを利用すればいいのではないか。外国では長いマカロニをストローの代用品として利用されているという例もある。そちらのように、代用品を探すのもよい。ストローという商品は、使い捨てプラスチックを無駄に増やしているといえるのだ。

V-3　割り箸

割り箸はコンビニ弁当などを購入すると付いてくる竹製でできたものである。割り箸も家から箸を持参して出かければ利用することがないので、無駄な資源ゴミを減らすために家から持参し、出かけることを徹底するべきである。祭りなど人の多い場所でポイ捨てをすると落ちていることに気が付かず、踏んでしまい怪我をする恐れがあるので、ポイ捨ては絶対にしてはいけない。

V-4　ペットボトル

ペットボトルは一回飲みきっても次に新しいお茶やお水を入れて再利用することができる。ペットボトルはすぐ壊れることがないのでその利点を活用することができる。また、ペットボトルを再利用することが嫌な人はマイボトルを用意し、家でお茶を淹れていくことをすればペットボトルの消費数は減少するのではないか。近年の水筒は、昔と比べたくさんの種類が発表されている。デザインがおしゃれで若者に人気の水筒やステンレス製の軽くて持ち運びのしやすい水筒。保温・保冷に優れた水筒など多くの種類がある。その中からお気に入りの一本を一人ひとりが見つけることでペットボトルの消費率は減少するのではないだろうか。

V-4-(1)　マイボトルのメリット

マイボトルを持つことによるメリットを考えた。第一に財布と環境に優しいことが一番のメリットではないか。毎日ペットボトルを購入するよりもマイボトルにお茶を淹れて持ち歩く人がお金を無駄に使わずに済むのだ。ペットボトルをつくるための資源も削減することができるので非常にエコである。第二に自分好みの味を自分で入れられるという利点がある。自分の好きな味のティーバッグからお茶をだし、それをマイボトルに入れてお出かけすることができるのだ。第三に自分の好きなタイミングにさっと取り出し飲むことができる。飲み物を飲みたいと思ってから買いに行って飲むのではなく飲みたいと思った時に取り出してすぐに飲むことができるのだ。

V-4-(2)　マイボトルのデメリット

マイボトルにはデメリットもいくつかある。1 つ目は荷物が増え、荷物が重くなることである。荷物が多いと行動しにくくなるという部分は誰もが嫌がることである。荷物が重くなるということに関して

は、近年発売されたステンレス製の軽い水筒を利用することが一番の解決策である。2 つ目はお茶を入れたりして準備するのが面倒であることである。お茶を入れる手間をお店でお茶を購入する手間と同じと考え、お店で購入する日常を家でお茶をいれることを日常と変えていくことが必要だと考える。3 つ目は自宅に持ち帰ってきて洗うことが面倒という意見が多い。しっかり洗ってはいるが毎日再利用するので不衛生ではないかという意見もある。しっかり洗浄機で洗うことや、洗剤をしっかりつけて洗うことで清潔に利用できる。そのほかにも買い物をするという楽しみが減るという意見もあった。

Ⅵ　祭りから日常へ

Ⅵ-1　祇園祭ごみゼロ大作戦の努力

2018 年 10 月、一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦の理事長太田氏のもとへ二回目のインタビューに伺った。その時、さらに 2019 年から祇園祭で実行する予定の活動があるとおっしゃっていた。それは、マイボトルを家から持ってきた人には、30 円〜50 円（未定）という安価でお茶を補給するという活動である。このような活動は大阪の万博公園ロハスフェスタや、京都の梅小路では音楽博覧会というイベントのときにすでに行われている活動である。こちらの活動はペットボトルだけにとどまらず、マイ弁当箱を持参した人にはサービスがあったり、無料になったりするという特典を作っている。このような活動をすることでリユースをすることが自分自身の得につながるということをみんなに気づいてもらおうという活動なのだ。

Ⅵ-2　リユースすることが日常へ

一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦の取り組みのように、祭りのような人が集まっているときに多くの人がエコな取り組みをしているということに対して人々の影響力は非常に大きいと思われる。単にリサイクルやリユースをしてくださいと呼びかける活動ではなく、リユースしてもらった方がエコだし得をするということに多くの人が気づく取り組みをこれからはしていかなくてはならないと感じた。

Ⅵ-2-（1）　日常にしようとしても・・・

水筒を持ち歩いたらペットボトルを購入する必要がなくなるということについてだが、例えば水筒の中身がなくなってしまえばどうだろうか。水筒の中身がなくなって喉が乾けばペットボトルを購入する人がほとんどなのではないだろうか。水筒を持ってきておきながらも、結局ペットボトルを購入するようでは荷物も増えてしまうだけである。水筒の中身がなくなればペットボトルの中身だけを購入することができる環境や設備が整っていなければ、マイボトルを持ち歩こうと考える人は増えないだろう。だがしかし現状ではそのような環境や設備がない。そのようなところを改善していかなくては、マイボトルを持っていっても結局ペットボトルを購入するということになる。このままではマイボトルを持ち歩く人は一向に増えないだろう。コンビニエンスストアなどでペットボトルのお茶を購入するよりも、マイボトルにお茶を入れる人が安く購入できるといったシステムを世の中に導入しなければならないのではないか。

Ⅵ-2-(2)　類似の問題

現在の日本ではペットボトルをやめてマイボトルにしようと言っても、マイボトルの中身がなくなったときに中身のみを購入できない事例と同じように、自動車をやめて自転車で行動しようとしても、自転車置き場の数が足りない事例や、レジ袋や割り箸を使わないようにしようといいながらも、利用されている店が多い。このような事例を減らすためには、日本の法律でむだにプラスチックを利用しない決まりを作らなくてはならないと考える。

Ⅶ　おわりに

Ⅶ-1　これからの祇園祭のために

祇園祭に訪れた人が少しでもリユースへの意識が高まるように、リユース食器の知名度を高めることは必要不可欠だ。ひと昔前の祇園祭ではポイ捨てをしている人が多く、祇園祭の会場全体がゴミ箱のような状態だったのだが最近ではマナーやモラルが高まりポイ捨てをする人が減った。いまだにポイ捨てをしている人々も、そのことにいち早く気づき日常生活でポイ捨てをしないことを当たり前としていきたい。また、祇園祭の範囲にあるコンビニエンスストアや飲食店からの協力はこれから必要不可欠になる。そのことを私有地店舗は気づき、祇園祭の時は協力するべきだ。祇園祭に訪れた人は、楽しむのが目的で訪れているのだから、ゴミ分別などのポスターにはあまり意識的に目を向けないものだから、更にインパクトのあるポスターを掲示することも必要となってくるのではないか。

Ⅶ-2　これからの日常生活において

祭りというものは人が多く集まるので、多くの人がリユースをしていれば自分もしなくてはと思う人が増えると考えるので影響力が大きいと考える。その影響力を利用し、リユース食器をみんなが当たり前に知り、それをきっかけとし多くの人が日常生活の中でもリユースするのが当たり前になればいいと思う。もちろんみんながリユースすることを当たり前にすると、割り箸が売れなくなったり、ペットボトル飲料が売れなくなったりする問題があるので、それについては国全体で考えていかなくてはならない問題である。また、シンガポールなどでの美しい街並みを維持している国では、タバコのポイ捨て一回につき日本円で 5 万 6000 円の罰金を言い渡されるようだ。日本もこのようにポイ捨てを警察が見つけたら 1 万円の罰金が科されるなど、ポイ捨てに対する取り締まりを厳しくしていくべきだと考える。祭りというものを楽しむだけで終わるのではなく、これからの文化を発展させる場でもあると考えるので国民全体で意識するべきである。

Ⅶ-3　これからの京都のために

祇園祭についてインターネットや、一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦の人のご協力のもと事前調査する上で京都の代表的な祭り、「祇園祭」について詳しく知り、さらに好きになり京都の祇園祭がさらに良くなればいいのではないかと思った。20 代の男女に祇園祭のイメージを聞き取り調査したところ、ゴミが多く汚いと思っている人が多かった。祇園祭のために遠くの地方から訪れてくれた人に京都は汚

いというイメージを与えるのは京都のイメージダウンに繋がると思うので、綺麗な京都を作るためにポスター活動やボランティアの人にとどまらず、家族や友人がポイ捨てをしていたら注意していけるようにしていければよい。自分一人くらいポイ捨てしても・・・と思うのではなく自分からゴミを減らそうという気持ちを持つ人が祇園祭をきっかけに増え、今よりも綺麗な京都を京都市民全体でつくっていきたい。そのためには、多くの人にポイ捨てやリユースをする活動を拡散させていきたい。より住みやすく、誇れる京都のために一人一人の意思を変えていくべきだ。

Ⅶ-4　わたしたちにできること

筆者はリユース食器というものを知ってから、リユースすることは環境のためにも自分の財布にとっても優しいことだということを再確認できた。今までは学校に行くと毎日のようにペットボトルのお茶や紙パックのジュースを購入していたが、マイボトルにお茶を淹れて学校にもってくるようになった。冬の季節となると喉が乾きにくくなるので、ペットボトルを購入することがなくなった。他にも、飲食店のドリンクバーを利用する際今まではストローを使ってジュースを飲んでいたが、ストローはなくても飲めるので意識して利用しないようにしている。このように少しの意識や知識で行動が変化するので一人でも多くの人が小さいことからでも始め、小さな積み重ねが大きな結果へと導かれることを期待したい。

協力者・協力団体

1. 祇園祭ごみゼロ大作戦
2. 一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦の理事長太田航平氏

参考文献

1. 祇園祭の歴史…玲（高科百理）(2013-2018)「京都祇園祭！始まりの由来とその歴史は？」いい日本再発見 http://ii-nippon.net/日本の祭/1779.html（2018 年 11 月 29 日閲覧）
2. リサイクル率の高い国…株式会社　青葉環境保全（2017 年 7 月 10 日）「見てみよう！～リサイクル率の高い国ランキング～」ApiAction! http://info.aobakankyo.com/?eid=85 (2018 年 11 月 29 日閲覧)
3. シンガポールのタバコポイ捨て罰金…Nekolas（2015 年 1 月 29 日）「タバコをポイ捨てして『185 万円の罰金を言い渡された男性』がネットで注目の的に!!「喫煙者は地球を灰皿に使用するのをやめるべき」などの声が」ロケットニュース https://rocketnews24.com/2015/01/29/538124/（2018 年 11 月 29 日閲覧）